



平成15年 7月 8日発行



北海道 国際理解教育研究協議会



会報 第55号



会長 真木 孝輝



事務局長 池田 幸一



「国際理解教育でねらうものは、英語教育なのか、英語活動なのか」

北海道国際理解教育研究協議会

会長 真木 孝輝

(札幌市立もみじ台西小学校長)

最近の全国海外子女教育・国際理解教育研究協議大会等の全国レベルの国際理解教育についての大会または分科会に参加してつくづく思うことがある。それは、国際理解教育の進展を願う研究会であり、提案も討議も当然その方向で進められているはずなのだが、なぜか必ず何時の間にか、「小学校で英語教育をどう進めると効果的なのかという提案」と「英語活動を通して国際理解教育を進めるとい提案」がせめぎあう場面になってしまうことである。

どうやら、一方の主張は「児童には、早期からの本格的な英語教育が効果的」という英語教育早期導入論のように思える。又、国際理解教育の一環としての英語活動であるべきという派からの主張は、「であれば言語は英語に限らずその学校・地域の実態を生かして、韓国語や中国語等の外国の言語や文化風習でも良いはずだ」と主張しているように感ずる。

平成16年度の北海道国際理解教育研究協議会で研究され、授業で、実践の結果として提案されるものの中の主要なもの1つは、当然この議論の分かれる「英語教育なのか英語活動なのか」であろう。

会員の皆さんはどうこの問題を考えられておられるのか、旭川地区の皆さんはどう提案されるのか興味津々である。

私自身は、後者の国際理解活動を推し進める一手段としての英語活動を推進すべきと考えているのだが、東京や大阪などの大都会では、どうやら進学問題のからみからか、保護者から「小学校に英語教育を！」の声が大きく叫ばれているように感じる。これらの声を受けて、文部科学省は日本の教育将来展望をどう構想しようとしているのだろうか。これに対して私たち国際理解教育に携わる人間はどう声をあげていくべきなのかは重要な問題だと思う。その意味でも今年の北海道国際理解教育研究大会に向けての各地区での研究の取り組みは重要だと感じている。

来る9月の旭川大会では、この問題についても、会員諸君の暑い討議を期待している次第である。

北海道国際理解教育研究協議会事業計画

1. 基本方針

21世紀を生きる北海道の子供たちに、国際社会に貢献できる日本人としての資質を育成する国際理解教育の在り方を探る。

- ・学校教育における国際理解教育の在り方を、主に授業実践を通して深める。
- ・新しい教育の流れの中で、国際理解教育の果たすべき役割を探る。
- ・各地区との交流を深めるとともに、研究を支える組織の整備を図る。

2. 事業内容（研究団体として北海道の教育に貢献する）

- (1) 全道大会を開催し、研究成果を交流する。
- (2) 研究成果の交流のため、「研究集録」や「研究紀要」を発行する。
- (3) 「会報」を発行し、研究の成果や情報を交流する。
- (4) 地区との連携を密にし、組織を強化し、各地区の研究推進に協力する。
- (5) 派遣教員と帰国教員に対し、研修会を開催し、それぞれを支援する。
- (6) 国際理解教育に必要な各種資料を収集し、インターネット等でも提供できるように検討を進める。

3. 今年度の重点

- (1) 第24回北海道国際理解教育研究大会 上川・旭川大会の成功を図る。
 - ・研究団体として会員の資質向上と研究の深化を図る。
 - ・北海道の国際理解教育の向上に努める。
- (2) 地域に密着した各地区の研究の深化と交流を図る。
 - ・研究主題を共通の窓口としながら、各地区の独自性を発揮した研究を推進する。
 - ・地域、時代の要請を生かした研究を進め、会員の意識の向上を図る。
 - ・帰国教員の貴重な体験を、地域の教育に生かす。
- (3) 総合的な学習の時間における国際理解教育の在り方を探る。
 - ・総合的な学習の時間における国際理解教育の在り方を、積極的に実践し、地域に積極的に広げる。

1 基本方針

児童・生徒が「自分の生き方」に誇りを持ち、自分の未来と地球の未来に対して責任を担うことができる生き方を創造する場としての国際理解教育のあり方を明らかにしていく。

2 研究主題 《 第7次研究 2年度 》

地球を見つめ、自分を見つめ、 未来を切り拓く児童・生徒の育成

「地球村」に「地球市民」として責任を果たし自信を持っていきっていくために自分はなぜ、何のために、どのように生きていくかという未来への方位磁針を持つ子を育てる。

人間中心、地球志向そして未来への学習

人間中心とは	自分自身への認識を深める	心へと向かう旅
地球志向の学習	グローバルな問題意識	地球へと向かう旅
未来への学習	問題解決する姿	夢へと向かう旅

旭川大会・「自ら問いかけ、共生をめざす国際理解教育」

「十勝・帯広大会」では、子供と異文化や世界の現実との距離をちぢめていく学びを展開することで子供たちは「地球市民」としての資質能力を育てていくことを学びました。そこで、今年の研究では、子供を現実的な問題に直面させることで、地球市民としての「自己の確立」と「他者と共に生きていく」ための「生きる力」を育てることをめざします。

国際理解教育で目指す子供の姿

共生の心	異文化を理解する心
他者とコミュニケーションする力	人間として行動する力

3 研究計画

今年度の研究推進の重点

国際理解教育の実践は、仲間との共同研究により焦点化され質の高いものへと進化している。また、「地球市民」としての生きかたを求め一人一人の生きる力を育む場としての「国際理解教育の確立」がますます求められている。

昨年、10月に行われた十勝・帯広大会では「教室と世界を結ぶ学びの創造」というサブテーマのもと国際理解教育の実践を授業で行う基本の姿を提案することができた。

そこで、今年度は十勝・帯広大会の成果を継続し、教室を国際理解教育の実践の場とするために以下のことに重点をおきながら研究推進にあたっていく。

国際理解教育における評価の在り方

国際理解教育を学習として実践していくには、評価と一体となった指導計画の作成が必要である。そのためには、子供たちが、自ら世界とのかかわりを見出し、それを問題解決し、実践化していく学習活動を構成するとともに、その場面ごとにどんな子供の姿を目指すのかをはっきりさせなければならない。そこで、学習活動づくりの過程を明らかにするとともに、その過程の中で、問題解決能力や地球市民としての意識の高まりをどう評価するかを研究する。

小学校における「英語活動」について

「小学校における英語活動」については、英語を異文化ととらえ積極的に利用していくなど、英語を通して国際理解教育を学ばせていく実践が数多く報告されている。しかしその位置づけ、英語教育とのかかわりなど整理しなければならない問題が数多存在する。そこで、英語活動についての考え方を整理国際理解教育における「英語活動」の在り方を研究していく。

研究大会案内

詳しくは、全海研ホームページ及び本会「ホームページ」をご覧ください。

第30回 全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会東京大会

「世界と子どもをひらき、つなぐ教育をめざして」
地球時代の共生をめざした新たな学びづくり

- ・開催日 平成15年8月5日(火)9:00～8月6日(水)16:00
- ・開催地 品川女子学院 (カテドラル以外・校内全面禁煙) 東京都品川区北品川3-3-12
(JR・品川駅・徒歩8分、京浜急行・北品川駅・徒歩1分)
- ・大会参加費
5000円(一般参加者)、3000円(全海研・正会員)
- ・日程 8月5日(火)
9:00 受付 9:30 実践事例発表会 12:00 昼食 13:00
開会行事・研究総会 14:15 14:30 記念シンポジウム 16:30 懇親会 18:30
8月6日(水)
9:00 受付 9:30 テマ別分科会 12:00 昼食 13:00 トキнгテーブル・
記念懇話会 14:30 分科会報告会・まとめ 15:30 全国B発表

問い合わせ先・参加申込先

(全海研・事務局 〒134-0013 東京都江戸川区江戸川5-14-7)

Fax : 03-5696-3358

E-mail : info@zenkaiken.net

第13回 全国海外子女教育・国際理解教育研究大会北海道ブロック大会

第11回 上川旭川国際理解教育研究大会

第24回 北海道国際理解教育研究大会上川旭川大会

大会主題

「地球を見つめ、自分を見つめ、未来を切り拓く児童・生徒の育成」

- 期日 平成15年 9月11日(木)・12日(金)
- 会場 11日(木) トーヨーホテル (旭川市7条7丁目)
12日(金) 旭川藤女子高等学校 (旭川市花咲町6丁目)
- 公開授業 幼稚園から大学までの授業を公開!
- 分科会 課題別分科会(4分科会) 授業別分科会(4分科会)

問い合わせ先 事務局

北海道旭川市立忠和小学校 教頭 田山 裕

〒070-8044 旭川市忠和4条4丁目

0166-62-2923 FAX 0166-62-2998

「上川・旭川大会」の詳しい案内を同封しました。そちらをご覧ください。

北海道国際理解教育研究協議会では、「ホームページ」を開設しました

ホームページ開設に伴い、各種情報については、ホームページでご覧いただくこととなります。また、Eメールでのご意見・情報等は今までと同様に受け付けております。

また、海外にお住まいの会員の方々には、会報発行のお知らせを学校または、個人宛のEメールで送り、ご覧いただく形をとりたいと思います。なお、個人宛に「会報」文書を送ることを希望される方は、その旨Eメールを下さればお送りいたします。

国際理解ホームページをご活用ください

昨年からの懸案だった道国際理解ホームページを4月1日から開設しています。全海研のサーバーを借用し運用しております。アドレスは、

<http://www.zenkaiken.net/hokkaido/>

■北の大地から 世界へ 未来へ■

北海道国際理解教育研究協議会



000482 03.06.12更新

Sorry, Japanese Only.

- 本組織の概要**
 - ・本組織の概要
 - ・会の歴史
- ご挨拶**
 - ・ご挨拶(会長)
- 今年度の活動**
 - ・今年度の主な活動
 - ・前年度(14年度)の活動
- 研究の概要**
 - ・研究の概要
- 役員一覧**
 - ・15年度 各地区役員
 - ・14年度 事務局役員(PDF)
 - ・その他の年度の役員
- 入会のご案内**
 - ・入会ご案内/入会フォーム
- 事務連絡**

全道大会(第25回旭川大会)のご案内

平成15年9月11日(木)～12日(金)

国際理解教育データコーナー

国際理解教育に役立つさまざまなデータや情報を蓄積しています
↑ 工事中, 間もなくオープンします

■トピックス ■その他のトピックス

- New ・全道大会/旭川大会のご案内(06/11)
- New ・札幌地区講演会のご案内(06/11)
- New ・派遣教員をめざす方々へ…前事務局次長 佐藤 稔子氏(06/10)
- New ・国際理解教育プレゼン…前会長:高橋 承造氏(04/01)

■海外からのメッセージ(在外教育施設派遣教員からの情報/メッセージ)

- New ・ハノイ通信14号 武山昌裕先生(ベトナム)(06/08)
- New ・北京日本人学校校長 高橋 宏氏より(05/17)

■ ホットな在外情報はこちらからお入りください ■

↑ 工事中, 間もなくオープンします

◎●派遣教員, 帰国教員, 海外研修をされた先生方◎○
情報をお寄せください
★こちらまで★

- 各地区ホームページ
 - ・胆振HP
 - ・釧路HP
 - ・空知HP
- 各地区の活動
 - ・胆振
 - ・釧路
 - ・上川旭川
 - ・札幌
- 会報
 - ・54号/14年12月10日
 - ・53号/14年7月8日
 - ・52号以前の会報
- 派遣教員をめざす方へ
 - ・前事務局次長 佐藤 稔子氏
- 先輩たちの声
 - ・元会長 山内 武道氏
 - ・前会長 高橋 承造氏
- 会費の納入について
- メルマガ発行へ向けて
- メンバーリスト開設へ
- ▶情報をお寄せください

[こちらをクリックし, お気に入り\(ブックマーク\)に追加して, ぜひご利用ください!](#)

表示→文字のサイズを「小」にしてご覧いただくと, 見やすいレイアウトになります。
| [更新履歴](#) | [著作権/免責事項](#) | [リンクについて](#) | [お問い合わせ](#) | [ご意見/ご感想](#) |

Copyright (C) 2003 S.HIRO. All rights reserved.

全海研サーバー

本ホームページでは, 会員の皆様から情報を多数お寄せいただくことにより, データ量を増やし, 内容面での一層の充実とさらなる活用を模索しております。つきましては, ホームページ内容の充実のため, 会員の皆様からたくさんの情報をお寄せ頂きますようお願い申し上げます。

派遣・帰国教員の方につきましては, 実践された国際理解教育に関する資料, 派遣中に製作された教材や資料, 本邦向けに製作された通信, 帰国報告集等, 帰国後にまとめられた資料, その他, 現地に関する情報資料などをぜひお寄せください。

その他, 海外に関する情報, 一例を挙げますと, 短期の研修, 旅行等で得られた情報や画像, 資料等, どんなものでも結構ですのでお寄せいただき, 内容, とりわけデータベースの充実を図って参りたいと思っております。詳しくはホームページ <http://www.zenkaiken.net/hokkaido/> をご覧ください。

(この項担当 組織部長)

ポータル

夏休みの研修会のパンフレットが舞い込む季節になった。特に「小学校における英語活動」の講習会が目につくのは私だけだろうか。とにかく小学校英語は「やってみよう」という興味・関心の段階ではなく「どう指導したらよいか」という実践の段階に来ていると言える。確かに、英語は、世界的に最も広く利用価値の高い言語である。また、言葉を理解できるようになることは様々な文化を知る術になることは間違いない。

しかし、「中学校のことを考えると小学校ではこの言葉を教えなければならない。」とか「正しい発音でなければならない。子供の英語力の悪い影響を与える。」と「しなければならない」という主張が勢いを増して以前より多く聞かれるようになったのはちょっと気になることである。なにか、英語が小学校で位置づけられた当初の願いを見失っている気さえする。

もう一度「英語」を「英語活動」としたねらいを確認する必要があるのではないだろうか。外国語学習の中で英語を取り上げるのは、英語を教えるのではなく、英語表現に慣れ親しませて、異文化や人々とのコミュニケーションに関心と意欲をもつ子供たちを育てることをねらいにしたはずである。

「英語」を覚えるための実践ではなく、「英語」から広がる世界の広さを子供たちに感得させる実践こそが今必要なのである。

図書紹介

プロジェクト・シチズン

CENTER FOR CIVIC

EDUCATION 著

全国法教育ネットワーク 訳

(現代人文社)

この本は、アメリカの公教育センターと全米州議会協議会とが共同で作成し、全米の中学校において公民教育、政治教育のプログラムとして幅広く利用されている「WE THE PEOPLE PROJECT CITIZEN」を翻訳したものである。

そのため、まず、子供たちを「民主主義を支える市民」として育てるために、どんな知識と行動する力を育てなければならないのかという目標を明らかにしている。そして、注目すべきなのは市民としてどう問題解決に参加すべきなのかの過程を「参加型プログラム」の中で明らかにしていることである。

地域にある問題を、まず子供たちが明確にし、その背景や原因を調査することを通して、解決策を発信し、実際に地域社会に参加していく過程は、我々の実践と共通するものがある。また、本書では、子供たちの学習の評価をしていくために「ポートフォリオ」を利用しているとともにその評価規準を明らかにしている。この点も国際理解教育における評価のあり方を考える上で大変参考になる。

本書は「法教育」の立場から書かれてはいるが、国際理解教育の課題解決に向けて多くの示唆を与えてくれる一冊である。

(北海道国際理解教育研究協議会 研究部長 中村 淳)

会費納入のお願い

日頃より本会の活動につきまして、深いご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。
でございます。

本会は皆様の会費によって運営されております。会費は全道大会の運営と研究推進、会の円滑な運営、推進のため、お手数でも滞りなく納入いただきますようお願い申し上げます。

なお、納入状況等につきましての照会は、会計澤田崇までお願い申し上げます。

照会先

事務局会計 澤田 崇（札幌市立幌北小学校）

TEL 011-726-2461 FAX 011-716-0944

北海道国際理解教育研究協議会

年会費3000円

郵便振り込みにてお願いいたします。

振込先 澤田 崇

口座番号 02750-4-3409

通信欄には、氏名、支払い年度、おわかりでしたら会員番号
もお書きいただくと幸いです。

ご意見・ご感想・情報をお寄せください

北海道国際理解教育研究協議会

E mail kokusai@hokkaido.777.ac

道内、国内、海外を問わず情報を事務局までお寄せください。また広報についてのご意見、ご感想もお待ちしております。

各地区における活動状況、実践報告、研究推進、各国の情報等を文書と画像も添付してお送りください。変換後、順次、広報に掲載して参ります。たくさんのお情報をお待ちしております。

発行 北海道国際理解教育研究協議会広報部

会 長 真木 孝輝（札幌市立もみじ台西小学校長）
事務局長 池田 幸一（札幌市立新陵東小学校長）
広報部長 古里 和雄（札幌市立手稲西小学校）